

A G A R O O T



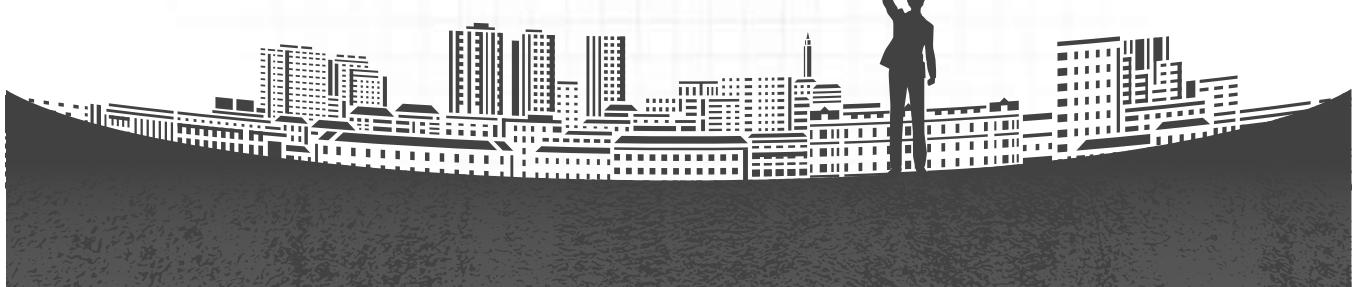
A C A D E M Y



司法試験／予備試験
法科大学院入試

令和5年～令和6年合格者

体験記



令和6年度 予備試験合格

自分の信条に従って仕事がしたいと弁護士を目指す

小野 敬太さん (20代前半)

大学3年生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

自分は大学3年の最初まで就活をしていたのだが、さらに独立した形で自分の信条に従って仕事がしたいと思い、弁護士を目指すことを決めました。また、法律の勉強自体は好きだったことや弁護士の方からお話を聴き、仕事が楽しそうと思えたことも理由です。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

弁護士を目指すことを決めて独学で勉強を始めたものの、強制力がないため、挫折しました。友達は予備校に通っていたことから予備校に通おうと決意しました。自分は経済的に余裕があるわけではなく、価格が安いアガルートにしました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

自分は大学3年生の6月ごろ、つまり受験する短答式試験のほぼ1年前に学習を始めたこともあり、時間的余裕はありませんでした。また、サークルも最後の代でとても忙しかったため、無駄のない勉強をモットーに勉強をしていました。無駄のない勉強というのも、アガルートのカリキュラムのみをやるという非常にシンプルな作戦で、基本書や判例百選などは一切触れずに勉強を進めました。集中が途切れることも多々ありましたが、サークル活動や遊びでうまく気分転換してメリハリをつけられたことが長い目で見て非常に効果的だったと思います。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

自分はサークル活動とゼミ活動で4年生になるまでは忙しく、学習を始めたのも3年の春だったので、時間的余裕がない状態でのスタートを切りました。そこで、他の活動をしている時間以外はなるべく法律の勉強をするように努め、予備試験まで残り半年にな

るまでインプットを終了させようと意識していました。このように目標を明確に意識することで、集中力を上げ、活動以外の時間をすべて勉強時間に充てることで学習時間を確保しました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

直前期は、メンタル的に厳しい状況に置かれることもあり、勉強の姿勢の組み方が非常に難しかったです。そこで、やるべきことを一日単位でスケジュールに組んで、それにのみ取り組むことで集中力及びメンタルヘルスを維持することができました。直前期は無心で必要なことだけを抽出して可能な限り多くの時間を勉強に費やすことが最も重要です。そのような心持ちをもつために徹底した自己分析とスケジュール作成をし、制度的に自分が集中できる環境を作り、本番に挑みました。

試験期間中の過ごし方

予備試験はメンタル維持が合格のために本当に必要な構成要素なので、試験期間中はメンタル維持を最優先事項として据えました。そこで、今まで必死に勉強してきた自分そしてアガルートのことを信じて試験期間中は家でも移動時間中でも一切勉強をしませんでした。しないと決め打つことで、今まで勉強を頑張ってきた自分をさらに信じができるようになり、試験期間中では、非常に良い状態のメンタルを維持しながら試験に臨むことができました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

短答式試験と口述式試験は合格の確信があったのですが、論文式試験は試験直後には合格できたかは半信半疑くらいでした。もっとも、答えるべきところは答えられたらし、試験時間中のタイムマネジメントも完璧にできたので、もしや受かっているのではという気持ちに徐々になってきました。しかし、その後は逆に自分は受かっていないのではという気持ちにかられ、合格と不合格の気持ちを交互していました。そして、受かった時に達成感はすさまじく、これまでやってきた自分の努力は間違っていなかつたんだなと非常に喜ばしい気持ちになり、胸がいっぱいになりました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

振り返ってみて、1年と少しという短い期間で予備試験に一発合格できたのは、「時間的余裕がなかったこと」だったと思います。通常は時間的余裕がないことは合格のために進むにつれ、足を引きする要因だと考えられると思うのですが、うまく利用すれば、合格のための重要な決め手になります。自分は時間的余裕がないことによりやるべきことを明確化でき、必要なことだけをすることで、最短の道を歩むことができ、予備試験に合格できただと思います。

アガルートアカデミーを一言で表すと

合格への羅針盤

令和6年度 予備試験合格

アウトプットこそが最高のインプット

小林 一基さん (20代前半)

法科大学院生

受講していた講座

予備試験最短合格カリキュラム

合格体験記

法曹を目指すきっかけ

学部4年次に環境法のゼミに参加し、そこでアスペクトに関するゼミ論文を執筆いたしました。その中で、アスペクトを切り口に多様な法律の適用可能性を認識し、目新しい面白さを感じました。したがって、様々な法律の適用可能性の検討が求められる、法曹を目指すことといたしました。

アガルートアカデミーを知ったきっかけや選んだ理由

学部4年8月から学習を開始し、ローの既習試験に全落ちし、数か月の学習でしたが、独学での限界を感じていました。そこで、予備校を探し、複数の予備校の資料請求をしたうえで比較をしました。その結果、当時、アガルートがもっとも費用が低廉で、テキストもわかりやすそうだったので、こちらを選ばせていただきました。

勉強の方針とどのように勉強を進めていたか

インプットばかりに意識が向き、アウトプットを全く行わなかったため、既習試験は悲惨な結果に終わりました。そこで、アガルートアカデミーの講座を受講してからは、アウトプット中心の学習を行いました。重要問題習得講座でアウトプットをしていく中で、知識の定着が図られていくことを実感し、アウトプットこそが最高のインプットであることを実感いたしました。予備試験・司法試験では事例問題が出題されることからすれば、事例検討の中で知識の定着・インプットを図っていくべきであるとの意識のもと、アウトプットを積極的に行っていました。

学習時間はどのように確保し、一日をどのように過ごしていたか

専業受験生なので、時間は豊富にあったと思います。ただ、法科大学院未修1年次は、予習・復習に多くの時間が割かれるところ、私は割り切って、予習復習を切り捨て、アガルートの講座の受講に多くの時間を費やしました。また、遠方通学をしていたので、通学

時間は必ず論証集の「使い方」講座を電車内で受講し、時間を有効活用していました。

法科大学院の期末試験1週前は、その試験対策に充て、試験が終了次第、すぐにアガルートの講座に戻るという形で進めていました。

直前期の過ごし方（どのような勉強をして、どのような心構えで試験を迎えたか）

直前期に近づくにつれ、手を出す範囲を減らしていました。

短答は、2週間前からは、過去問の中でも、自分が複数回間違えた問題の演習と六法の見直しのみをするようにしていました。論文は、1週間前までに重要問題習得講座を解き切り、1週間前からは論証の見直しと、苦手な重要問題習得講座の問題のみに集中して、知識の点検に努めました。

直前期は、精神的につらいときもありますが、普段通りの生活を継続することと、法科大学院に行き、友達と話すなどして、精神的に安定させるように意識しました。

試験期間中の過ごし方

直前期に論証の見直しをし、そこで覚えきれていない箇所に付箋をし、試験前にそこだけを繰り返し確認するようにしていました。本番は、周りは全く見ず知らずの人ばかりで緊張し、思ったより集中して勉強するのが難しいです。本番直前に焦らないように、直前に何をするのかを予め決めておき、それだけしか見直すことはしないという意識で臨んでいました。

人は直前で見たことをほとんど覚えていないとの話を聞いたことがあったので、あきらめて、苦手分野の見直しにとどめていました。

受験した時の手ごたえと合格した時の気持ち

いずれも初受験だったので、短答も論文も感触はよくわからなかったのが本音です。合格率という点では、いずれも20%ほどなので、落ちていても仕方がないとの心境でした。ただ、私は法科大学院2年でして、来年いずれにしても在学中受験ができるという気持ちから、そこまで試験の結果に思い悩むことはありませんでした。

論文式試験合格発表で自身の番号を確認した時は本当に嬉しかったです。法科大学院不合格を多く経験していたので、アガルートを経て、自身の成長を実感し、大きな達成感を得ました。

振り返ってみて合格の決め手は？当該講座はどの程度影響したのか

合格の決め手は、重要問題習得講座です。重要問題習得講座を繰り返し演習し、ここに載っている論点については、ひと通りのことは書けるようになるとともに、問題提起、あてはめの仕方を体得しました。論文式試験では重要問題習得講座に載っていない論点も出題されましたが、重要問題習得講座を参考に導くことができました。

論文問題集は市販の物はいくつかあります。しかし、いずれも解説が不十分であったり、解答例が付いてないものがほとんどですが、重要問題習得講座はこのいずれも記載されており、論文式試験の対策を十全に行うことができました。

令和6年度 司法試験合格

学習の進捗を的確に管理してもらった

Y. Iさん (20代)

法科大学院卒業

受講していた講座

司法試験 論文過去問解析講座、経済法 / 司法論文過去問解析講座、短答知識完成講座Ⅰ、論証集の「使い方」

経済法 / 司法過去問解析講座、司法試験 論文過去問解析講座、経済法 / 3講座パック

法科大学院入試過去問解析講座 / 東京大学、予備試験 1年合格カリキュラム マネージメントオプション

合格体験記

アガルートアカデミーを選んだ理由

司法試験を目指すことを決めた際、私は司法試験を志す学生が少ない大学に通っており、予備校についての情報をほとんど持っていました。そのため、どの予備校に通うべきか全く分からず、インターネットで情報を集めることにしました。いくつかの予備校を比較した結果、最終的にアガルートアカデミーを選んだ理由はいくつかあります。

まず、アガルートが提供する通学不要なオンライン講座に魅力を感じました。私は当時大学生でサークル活動の長を務めており、日々の活動や会議に時間を取られることが多くなったため、学習時間を柔軟に調整できる環境が必要でした。オンライン講座であれば、自分のペースで学習を進めることができ、忙しい生活の中でも効率的に学習時間を確保できました。

次に、アガルートのペース管理体制にも強く惹かれました。大学受験時代、宿題の進捗管理をしてくれる塾に通い、偏差値が大きく向上した経験がありました。そのため、自分の学習の進行状況をしっかりと管理してくれる環境が自分に合っていると感じました。アガルートでは、マネージメントオプションを受講することで、進捗を的確に管理してもらえる点が特に魅力的でした。

さらに、当時アガルートは成長途上の予備校であり、そのような新しい予備校には個別のニーズに真摯に向き合い、サポートしてくれるのではないかという期待がありました。発展途上の予備校だからこそ、より力を入れてサポートしてくれるだろうと考え、アガルートを選びました。

これらの理由から、私はアガルートアカデミー選び、司法試験の学習をスタートしました。

合格体験記

司法試験合格への道のりは、決して順調なものではありませんでした。精神的な課題に悩み、思うように勉強時間を確保できない日々が続きましたが、その中で限られた時間を最大限に活用する方法を工夫し、最終的には合格をつかみ取ることができました。

私は2回目の受験で合格することができましたが、初回で不合格となった直後から再挑戦に向けた学習計画を立てました。その際、勉強が順調に進む場合と、うまくいかない場合の両方を想定して計画を組み立てました。勉強が進まない場合でも、自分の弱点を克服するために最低限必要な勉強に集中するという方針を決めました。計画を立てた当初、私は心身ともに健康でしたが、後に精神的な問題で勉強時間を長時間確保することが難しくなりました。もしあのとき計画を立てていなければ、さらに困難を感じたことだと思います。長時間勉強することができることに越したことはありませんが、うまくいかない状況を想定していたことが、結果的に自分を助けてくれたと感じています。

勉強の優先順位を決める際には、周囲のアドバイスに流されず、何が自分にとって本当に必要なかを冷静に見極めることが重要だと実感しました。

勉強時間に制限があったため、特に重視したのは過去問演習です。模試の時期に間に合うよう、2日に1問のペースで起案を行い、出題者の意図を理解しながら進めました。過去問に集中することで、効率的に必要な知識を習得しました。2回目の受験に向けては、過去問以外には新たに取り入れるものはありませんでした。また、既存の知識を維持することの重要性も感じていたため、ロースクール教材や論証集の「使い方」、重要問題習得講座などを復習し、知識の定着を図りました。体調が優れない日でも、最低限やるべきことを事前に決めておくことで、少ない時間でも効果的に学習に取り組むことができました。

私は限られた勉強時間の中で、自分の弱点を見つけて優先的に克服することに注力した結果、合格を勝ち取ることができたと感じています。試験本番では、うまくいかない場面もあるかもしれません、相対評価であることを忘れず、焦らず冷静に取り組んでください。何度目の挑戦でも、かかるべきタイミングで合格できると信じ、希望を持ち続けてください。心より応援しております。